

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書 (秦・前漢・後漢)	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
収	シュウ おさまる おさめる		収	収	収	収	収	収	収
收	人②		收	收	收		收	收	收
			収	収			収		
			収				収		
取	シュ とる	取	取	取	取	取	取	取	取
		取	取	取	取	取	取	取	取
		取	取	取	取	取	取	取	取
受	シュウ うかる うける	受	受	受	受	受	受	受	受
		受	受	受	受	受	受	受	受
		受	受	受	受	受	受	受	受
叔	シュク おじ	叔	叔	叔	叔	叔	叔	叔	叔
		叔	叔	叔	叔	叔	叔	叔	叔
		叔	叔	叔	叔	叔	叔	叔	叔

【収】康熙字典と『三省堂漢辞海』は又の2画。『角川新字源』と『JIS漢字字典』は又の3画だが、「収」の異体字の「収」はなぜか支の2画になっている。『JIS漢字字典』は『角川新字源』に倣っているようだ。本書では又の2画とした。旁は本来は「支」で、説文はその字体。陸軍幼年学校の用字便覧で

は、旁を「支」とする字体を本字とする。我が国の常用漢字の字体「収」は五経文字によれば〈収〉。
【受】甲骨の上の例が康熙古文に合致するもの。2番目が郭店楚簡と合致するもの。睡虎地秦簡は「又」の上に「一」があり、この字体は漢代まで受け継がれている。さらにその字体

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
収	収	収	収		収	収	収	収	収	収	収	収
収	収	収	収		収	収					収	収
収					収						収	収
											収	収
取	取	取	取	取			取	取	取	取	取	取
取	取	取	取								取	取
											取	取
受	受	受	受	受			受	受	受	受	受	受
											受	受
											受	受
叔	叔	叔	叔				叔	叔	叔	叔	叔	叔
叔	叔	叔	叔								叔	叔
											叔	叔

が「丈」に受け継がれているのかもしれない。
【収】説文に旁が「又」と「寸」の2種がある。五経文字で〈石経〉となっている字体は、通用字体よりも点が1つ少ない。この字体は拓本版の干禄字書にもある。石が荒れていて〈通〉なのか〈俗〉なのか判然としなが、残った部分は「イ」に見

えるのでたぶん〈俗〉なのだろうとおもって江戸版の干禄字書で確認すると〈通〉になっている。五経文字で〈石経〉となっているが、開成石経に使われている字体は「叔」なので、五経文字が示す石経は熹平石経か正始石経のことだろう。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
口	コウ くち くちへん								王勃詩序
右	ウ ユウ みぎ たすける								王勃詩序
									東大寺獻物帳 大小王真跡帳
可	カ ばかり べし								王勃詩序
									風信帖
叶	キョウ かない かなう								聾聵指歸
協	キョウ かなう								聾聵指歸
協									聾聵指歸
句	ク								法華義疏
									聾聵指歸
古	コ ふる い ふるす いしえ								王勃詩序
									蘭亭叙

【右】説文の口部と又部に同じ字体の例が載っている。書き順は中国では左払いを先に書くものが圧倒的に多い。ところが日本に伝わったのは横線を先に書く書き順だったようだ。平安中期には左払いを先に書くものと、横線を先に書くものが共存するようになる。江戸期は横線を先に書くものが圧倒的

に多くなり、左払いを先に書くものはごく少数になる。現代中国では横線を先に書くようだ。
【叶】大徐篆文にはなく、最も古い使用例は南北朝時代。大徐に「協」の或体として「叶」の字体があり、陸軍幼年学校の『用事便覧』に「協」の古字として「叶」の字体が掲載さ

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												口 現代中国
												右 現代中国
												可 現代中国
												可 現代中国
												叶 現代中国
												協 現代中国
												句 現代中国
												古 現代中国
												古 現代中国

れているがともに「叶」とは別の字種。
【句】「口」が「ム」の形になるため、「句」の字体になることがある。

